

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	東北大学
整理番号	A02
構想名	東北大学グローバルイニシアティブ構想

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「世界から尊敬される三十傑大学」を目標に掲げ、東北大学を中核とする「知の国際共同体」の形成や、卓越した教育研究を行うワールドクラスの大学への飛躍を目指すものである。スピントロニクス分野をはじめとする9つの重点領域において「国際共同大学院プログラム」を推進し、海外との積極的な提携により競争力強化を図るなど、計画に沿った取組を着実に実行しており、大学全体の底上げが期待出来る。</p> <p>スピントロニクス、環境・地球科学、データ科学、宇宙創成物理学の4つの国際共同大学院が予定どおり設立され、国際学位コースやダブル・ディグリーの拡充、国際アドバイザーボード設置による国際化のための環境整備が順調に進められている。学内体制についても、全学的なグローバルイニシアティブ構想推進本部の設置や、6つの機構化された組織による「機能結集型ガバナンス」体制の構築など、総長のリーダーシップの下によく練られた取組が積極的に実施されている。</p> <p>また、財政支援期間終了後の事業継続を見据え、大学独自の財源確保に向けた努力が行われている。総長裁量経費や寄附金等による女性研究者の採用促進支援策の実施や、入学が決定した高校生を対象とする入学前海外研修を国立大学として初めて導入し、早期からの学生のグローバルマインド醸成を図っている点も評価に値する。</p> <p>一方で、本構想が目指している「世界三十傑大学」の今後の実現に向けたより具体的な方策や取組を明確に打ち出すことが望まれる。また、国際共同大学院を創設する9領域以外の分野についても、国際化を進める検討を行うことに加えて、国際共著論文数等が国際水準に達するよう、大学全体として更に取り組むことが必要である。総長裁量経費を本事業に積極的に活用し、より一層の改革が推進されることを期待したい。</p> <p>外国語力基準を満たす学生数やダブル・ディグリー参加学生数の増加等、他大学への参考となる取組を含め、教育改革に関する各種目標は順調に達成されている。今後とも日本人学生の海外派遣実績を挙げ、日本の大学全体の国際化をリードすることを期待する。</p>	